

# 2021年 4月 18日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教「神の国はあなたたちのところに来ている」 マタイによる福音書 12章22-37節 高橋彰

## ◆ベルゼブル論争

22 そのとき、悪霊に取りつかれて目が見えず口の利けない人が、イエスのところに連れられて来て、イエスがいやされると、ものが言え、目が見えるようになった。23 群衆は皆驚いて、「この人はダビデの子ではないだろうか」と言った。24 しかし、ファリサイ派の人はこれを聞き、「悪霊の頭ベルゼブルの力によらなければ、この者は悪霊を追い出せはしない」と言った。25 イエスは、彼らの考えを見抜いて言われた。「どんな国でも内輪で争えば、荒れ果ててしまい、どんな町でも家でも、内輪で争えば成り立って行かない。26 サタンがサタンを追い出せば、それは内輪もめだ。そんなふうでは、どうしてその国が成り立って行くだろうか。27 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。28 しかし、わたしが神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。29 また、まず強い人を縛り上げなければ、どうしてその家に押し入って、家財道具を奪い取ることができるだろうか。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。30 わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。31 だから、言っておく。人が犯す罪や冒瀆は、どんなものでも赦されるが、「霊」に対する冒瀆は赦されない。32 人の子に言い逆らう者は赦される。しかし、聖霊に言い逆らう者は、この世でも後の世でも赦されることがない。」

## ◆木とその実

33 「木が良ければその実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木の良し悪しは、その結ぶ実で分かる。34 虻の子らよ、あなたたちは悪い人間であるのに、どうして良いことが言えようか。人の口からは、心にあふれていることが出て来るのである。35 善い人は、良いものを入れた倉から良いものを取り出し、悪い人は、悪いものを入れた倉から悪いものを取り出して来る。36 言っておくが、人は自分の話したつまらない言葉についてもすべて、裁きの日には責任を問われる。37 あなたは、自分の言葉によって義とされ、また、自分の言葉によって罪ある者とされる。」

聖書 新共同訳(C) 日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

イエスがおこなったいやしの業は、現代の私たちから見たら体の医療や治療とは見られないかもしれません。現代の私たちは病に対してどう対処しているでしょうか。科学技術が発展しても、今流行している疫病に対しては、なかなか太刀打ちできず、医療が追い付かないのは薬剤供給だけでなく、体制システムの不足、防止の対策の難しさも原因となっています。病への対処としてただ隔離しかできない(しない)ケースもあるわけです。

イエスのいやしは「セラペウオー」、セラピーの語源であるギリシア語で表現されます。世話や看病をして奉仕するという意味を持っています。診断や処置、手術というような病気の部分を除去するための行為よりも、病いの人へのケアや回復のための世話の働きなどを想像させます。イエスのいやしは、確かに受けた相手に届き、働き、いやしを受けた人は人間性を回復し、いのちの実を結ばせてゆきました。そのいやしと回復を目撃した人びとは仰天し、茫然自失となり、この方こそ預言されていたダビデの子、ダビデの末裔である救い主ではないかとさえ言い合いました。

当時の人びとは、病は悪霊に取りつかれている状態だと考えられてもいました。または本人や縁者先祖が罪を犯したゆえに神罰を受けているとも考えられました。それゆえ治療は悪霊を追い払うという祈祷や呪術まがいのものもありましたし、神に赦しや癒しを請うための捧げものがなされたりもしました。病の回復の宣言は祭司によって清くなっていると診断してもらうことでした。

イエスに敵対していたファリサイ派の人びとは、イエスのいやしは悪霊の頭ベルゼブルによる仕業だとヘイトスピーチを行いました。悪霊の親分だから魔術を行うように悪霊たちを自在に操り、追い出したのだと口撃したのです。イエスが神の国の到来を宣言し、

それによって悪霊の支配を打ち破って追い出し、人びとを解放したのに、イエスにおいて悪霊が働いていると見なしたのでした。しかしイエスは反論し、彼らの論拠の難点を指摘します。もし悪霊が悪霊を追い出すなら内部分裂が起きており、そんな国はもはや崩壊なので、愚かな論理だと。さらにファリサイ派たちの仲間の悪霊払い者達はどうやって悪霊を追い出すというのか、と。ベルゼブルは蠅の王、異教で崇拝された蠅をユダヤ人たちは汚れに集まり接する者として忌み嫌ったのです。この悪口にも、イエスのいやしの業が、言葉や実践によって病の人をケアしいやした様子がうかがい知られます。そしてそのようないやしがなされている現実こそが神の国到来の証しになっていることを、イエスは神の国がイエスを非難する「あなたたち」ファリサイ派のところにまでも来ていると言ったのです。起きている現実を見ることが出来ず、理解を拒否して口撃するファリサイ派たちこそいやされるべき人だという皮肉にも聞こえます。

人びとはイエスに逆らい、拒否し、見捨て、十字架にかけて殺しました。しかしイエスへの罪や冒瀆は赦されると言われます。しかし霊に対する冒瀆は赦されないと。神の霊で行われているいやし、神の国到来の業は、復活したイエスの昇天後、神の霊によって生じた教会に継承され実践されているとわたしたちは信じています。マタイ福音書が書かれた時代に、教会とそこに集う人びと、そして神の国到来を信じて実践し続けた、イエスのみ名による交わりやいやしの業がどんなに口撃されたかを想像します。しかし今日に至るまで教会はイエスに仕え、イエスがされたようにいやしの業をなし続けています。言葉や行為で、聞いた人びとがいやされ、いのちの実を結ぶことを信じて。